

国語

第1問 問6 (ii)

文章に明示されていない内容を推論する設問で、各学力層で差がついた

- ④ 人間が用いる言葉の大半は、音と意味との間に必然的なつながりのない記号である。だが、だからこそ人間は、原始的な段階から発展して多くの語彙を持てるようになり、高度に抽象的な思考と文化とに異なる言語的多様性を有するようになったのである。
- ③ 人間が用いる言葉の大半は、それが表す現実そのものではない恣意的な記号である。だが、だからこそ人間の言語は、一般的な法則にもとづく制度化された観念のみでなく、唯一無二の存在としての個々人の感情や思考を表現するものともなり得たのである。
- ② 人間が用いる言葉の大半は、同じ対象を異なる記号で表す言語の違いによって文化間に分断を生み出すものである。だが、だからこそ人間は、写真や動画といった映像文化を発展させ補完的に利用することで、文化間の相互理解をはかるうとして来たのである。
- ① 人間が用いる言葉の大半は、個物を指し示すことができないう限界を持っている。だが、だからこそ人間の言語は、事物を表現する一次的语言から観念を表現する二次的语言までの幅を持ちつつ、語彙の数を有限に抑えて学習を容易にすることができたのである。

(ii) Sさんは、波線部「通常の言語であればその。隙間。はより大きい。だが、それが人間の言語の長所でもある。」について、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を踏まえてより詳しい内容に書き改めたいと考えた。それはどのような内容になると考えられるか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

【Sさんの文章】
 オノマトペとは、例えば猫の鳴き声を「ニャーニャー」と表し、ニワトリの鳴き声を「コケッココ」と表すような言葉である。これは、実際の鳴き声をそのまま言葉に写し取ったものとして成立した言葉であり、その点では の一種だと言える。
 しかし、ニワトリの鳴き声は、英語では *cock-a-doodle-do* であり、フランス語では *coquerico* だという。ニワトリの鳴き声という対象自体は世界のどこでもだいたい同じであろうが、それぞれの言語で異なる記号で表されるのである。この点では、オノマトペには に近い面もあると考えることができるだろう。
 このように、対象と記号との間に、隙間。があるのが、人間の言語記号の大きな特徴である。オノマトペですら右のようにならざる。隙間。がある。通常の言語であればその。隙間。はより大きい。だが、それが人間の言語の長所でもある。

問6

授業で「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだSさんは、考えたことを文章にまとめた。次の「Sさんの文章」はその文章である。これについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

第1問 問6(ii)「12」

正解率	37.9%
SS65～70	70.7%
SS60～65	59.0%
SS55～60	48.3%
SS50～55	39.8%
SS45～50	31.7%
SS45未満	20.7%

2023年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「国語」

受験者数:	249,302人
平均点:	101.3点
標準偏差:	28.6

国語

第1問 問6 (ii)

文章に明示されていない内容を推論する設問で、各学力層で差がついた

結果分析

第1問の問6(ii)では、本文に直接書かれていない内容を含む選択肢について、本文(複数の文章)の趣旨に合致するかどうかを検討することが求められました。複数の文章を踏まえて答える必要があるため、文章の大意を捉えるスピードも必要になります。各学力層で差がつく結果となりました。

指導のご提案

共通テストでは、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた複数の題材による出題が見込まれます。このような問題では、それぞれの文章の論旨をきちんと捉えたうえで、設問の指示に沿う形で情報を取り出したり関連づけたりすることが必要です。今回のように、複数の文章を論拠として、それらに明示されていない内容を推定することが求められる場合もあるので、類題の演習に取り組んで解答の際の着眼点をおさえておくといよいでしょう。